

# 「地域医療連携から社会連携へ」

## ～ 東北7県医療連携実務者協議会 の意義と課題 ～

大館市立総合病院 工藤 賢一  
株式会社瀬尾医療連携事務所 瀬尾 利加子  
株式会社バイタルネット 作間 宏教  
市立角館総合病院 茂木 世輝子  
市立大森病院 村上 紀一  
JA秋田厚生連平鹿総合病院 大沢 知佳

# 日本医療マネジメント学会 COI 開示

筆頭演者名： 工藤 賢一  
大館市立総合病院

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある  
企業などはありません。

# 東北7県医療実務者連携協議会について

## 開催の目的

- ・新潟を含む東北7県で構成
- ・各地域における医療連携の現状・課題の把握
- ・医療連携実務者の知識向上
- ・実務者相互のネットワーク構築に向けた啓発

## 過去の開催地

- 第1回目 宮城県(仙台市)
- 第2回目 岩手県(盛岡市)
- 第3回目 青森県(青森市)
- 第4回目 秋田県(秋田市)
- 第5回目 山形県(天童市)
- 第6回目 新潟県(新潟市)
- 第7回目 福島県(福島市)
- 第8回目 宮城県(仙台市)
- 第9回目 岩手県(盛岡市)
- 第10回目 青森県(弘前市)

# スケジュールと進行管理

キックオフミー  
ティング

世話人会と実行  
委員立ち上げ

月例会、「開催パス」で  
進捗確認、現地調査

開催日を2019年11月に設定し、約1年前にキックオフミーティングを開催。毎月定例会を行うとともに、メーリングリストを活用し情報共有と課題の確認を行った。進行管理にあたっては「開催パス」を作成し、アウトカムの評価を行った。またバリアンス発生時には迅速に対処することができた。



# 当日の開催内容

**第1部 基調講演**  
「医療連携の始まりから未来へ」  
～同職種から多職種、社会連携へ  
宮崎県立日南病院医療管理部  
木佐貫 篤 先生



**第2部 各地の専門職により地域活動報告**  
(薬剤師、理学療法士、栄養士など)  
「院内・地域連携」に関する  
会場参加型のバズセッション

**第3部 現地報告**

閉会后 同一会場で懇親会 開催

また、当日は企業・団体の協賛による  
展示ブースも設置した。

参加者は東北7県で総勢221名

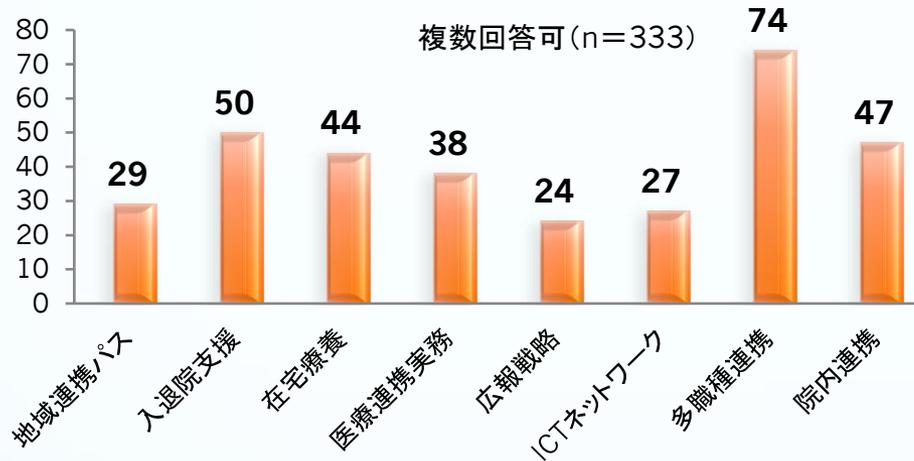


(参加者内訳)

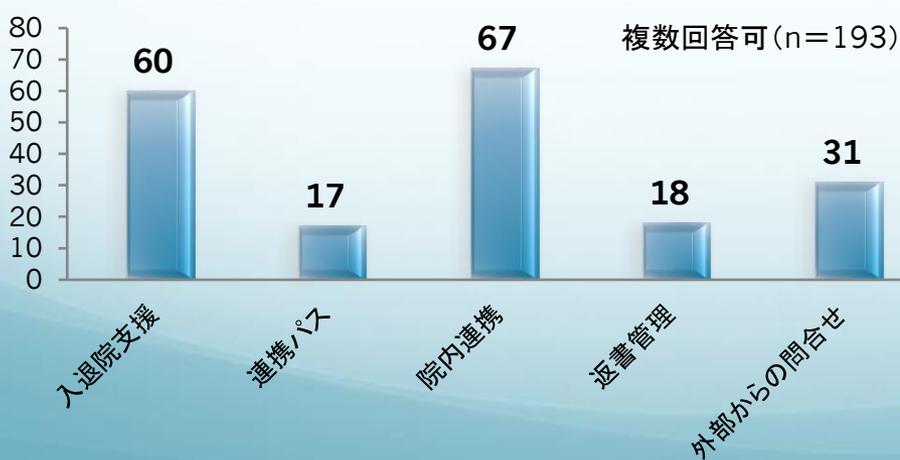
青森11名、岩手11名、秋田144、山形16名、  
宮城28名、福島3名、新潟5名、その他3名

# アンケートの結果

## 今後希望する内容



## 医療連携で苦労している業務



参加者221名中、アンケート回答  
152件(回収率73%)

企画の評価については、93.4%  
(142名)が良かったと回答し、大  
変好評をいただいた。

「医療連携で苦労している業務」の  
質問には、「院内連携」、「入退院  
支援」が多く、連携上の課題がま  
だ多く存在することが浮き彫りに  
なった。

# アンケートの結果(フリーコメント)

- 病院・機関だけではなく、地域の企業や商店街、住民などを巻き込んだ、新しい地域づくり、しくみづくりが必要であることを学ぶことができた。(山形県)
- 地域の把握の重要性及び連携室の役割を考えさせられる研修会だった。(秋田県)
- 院内連携が不十分なので、まずは職員全員への周知が必要。多職種連携に興味を持ってもらうにはどうしたらよいかこれからも学んでいきたい。(宮城県)
- 「社会連携」の重要性を学ぶことができた。(秋田県)

# 今後の課題

地域における医療連携実務者の知識向上、連携実務者同士の連携・交流の場としての本協議会は発足以来10経過し、毎年200名以上の参加者が遠方より集まり、新しい知見を学び活発なディスカッションと交流を深めることができていると、一定の成果を果たしているといえる。

一方で、協議会当初より存在した、「院内連携」の課題は未だ多く残っていることが浮き彫りにされた。私たちの活動をいかにして、病院・組織の共通の理解としてコンセンサスを得られることができるか、が課題であり、そのためにそれぞれの組織で何をすべきか、が問われているといえよう。

# ご清聴ありがとうございました



秋田県実行委員メンバー

第12回 東北7県医療実務者連携協議会  
11月21日(土) 山形市山形大学医学部にて開催予定